

シーケンス制御工学

——新しい理論と設計法——

執筆委員

横浜国立大学	工学博士	関 口	隆 (1章, 2章, 5章)
富士電機		高 橋	浩 (2章, 6章)
三菱電機		青 木	正 夫 (3章)
東 芝		下 川	勝 千 (4章)
日立製作所	工学博士	薦 田	憲 久 (5章, 7章)

電 気 学 会

序 言

電気学会は、1888年に創立された学者、技術者および電気関係法人の会員から成り、そのおもな目的は「電気に関する研究と進歩とその成果の普及を図り、もって学術の発展と文化の向上に寄与する」ことにある。創立110周年を機に活動の範囲を一段と広げようとしている。

電気学会は、上記の目的を達成するために1947年より大学講座シリーズをはじめその他の出版を企画し、その最も多くが大学・高専等の教科書として使用されてきた。またこれらの図書による多様な職場の社会人によって利用され、電気主任技術者、エネルギー管理士または情報処理技術者等の資格取得者を出すなど、技術者の養成に預かっている。

しかし、科学技術の進歩に伴い、新しい技術分野が次々に生まれ、また従来分野を横断した学術的知識が技術者に要求されるようになってきた。これを反映して、大学工学部の講義科目とその内容、時間配分は、多様化の傾向にある。

電気学会は、技術の進歩と教育方法の改革に対処することを本講座の編修方針の一つとしており、例えば、全国の大学の電気工学および関連学科の講義科目、内容、時間数を分析し、さらに当会発行図書を講義にご使用の先生方のご意見を拝聴することなどを適宜行い、その結果に応じてこれらの講義科目に適した教科書の制作、または改訂を着々行っている。

さらに、産業界の要望に応じて、現場技術者、研究者に仕事上すぐ役立つユニークな内容の専門技術書をタイムリーに発行することも実行しつつある。

電気工学ないし電子工学の成果は、今日およそあらゆる技術、産業に取り入れられその発展に寄与しているといっても過言ではなからう。したがって、電気・電子工学の知識とその更新は、専攻の学生や電気・電子技術者のみならず、各種技術分野に携わる人達にとっても身につけることが望ましく、一方、電気・電子技術者には関連技術分野の知識が必要である。